

チャトゲコナジラミの効率的な薬剤散布法の実証

農業技術振興センター企画情報部

【普及活動のねらい・対象】

茶の新害虫チャトゲコナジラミ(幼虫)は、多発すると茶園のすそ部分の葉が黒いすすのようなもので覆われ(チャトゲコナジラミが誘発するすす病)、翌年の一番茶減収につながります。

また、本害虫は、すそ部分の葉裏に生息することから、通常の防除方法では薬剤が付着せず、発生を抑えることが困難です。

そこで、すそ部分の葉裏に薬剤が効果的に付着する防除法として、茶業指導所で開発された「すそ重点防除」の実用化に向け、現地実証と農家への指導を行いました。

【普及活動の内容】

「すそ重点防除」は、手散布、乗用型防除機のどちらでも実施出来ます。

今回は、省力的・効果的な乗用型防除機による「すそ重点防除」を農家に提案し、作業効率や防除効果の確認をしました。

防除時期は、農閑期となる秋期もしくは冬期が最適で、今回、秋期防除は化学合成農薬(実施日:10月31日)、冬期防除は有機農業でも使用が認められるマツ油乳剤(実施日:2月22日)で行いました。

実証した農家からは、「噴口角度や散布圧を調整するだけで、すそ部分の葉裏に薬剤が確実に付着し、作業も大変楽になった。」と好評でこれからの普及に期待が持てます。

【普及活動の成果】

- (1)乗用型防除機による「すそ重点防除」は、手散布に比べ、薬剤散布量を3割程度減らしても、同等もしくはやや高い防除効果が得られ、作業時間も大幅に短縮できました(表)。
- (2)マツ油による防除は、化学合成農薬に比べ効果はやや劣るものの、防除率は70%と実用性のあることが確認できました(表)。
- (3)冬期のマツ油使用は、赤焼病を助長すると他府県の研究報告がありますが、今回、実証茶園で赤焼病の発生は見られませんでした(ただし、赤焼病常発地では、マツ油散布の1週間前に銅水和剤による予防散布が必要です)。

マツ油による「すそ重点防除」を主体とすると、環境にやさしい防除が実践でき、今後は、平坦地では乗用型防除機、乗用型が困難な山間地等では、手散布による「すそ重点防除」をチャトゲコナジラミの防除法として普及していきます。

表 乗用すそ重点防除による防除効果

散布方法	防除率 (%)	作業時間 (分/10a)	薬剤散布量 (L/10a)
乗用すそ重点防除(化学合成農薬)	74.2	30	300
乗用すそ重点防除(マツ油乳剤)	70.2	26	280
手散布すそ重点防除(マツ油乳剤)*	69.8	76	400
乗用慣行防除*	43.5	18	400

*=手散布すそ重点防除、乗用慣行防除は茶業指導所での成績

